

# 災害時安否確認 マニュアル

## はじめに

災害は発生の予測が難しく、突然わたしたちの身に降りかかってくる恐れがあります。災害時の人的被害を最小限にするためには、その発生から行動を起こすまでの時間をいかに素早くするかにかかっています。

そこで、地域住民が主体となり、「自助・共助・近助の精神」で生命の安全をお互いで確認するための「安否確認」を行うことが減災の第一歩となることから、駒ヶ根市では地域防災体制の柱として取り組んでまいります。

### 【安否確認とは】

- ある人が、生存しているかどうか、ケガなどをしていないかなどを確認すること。
- 今回このマニュアルでいう安否確認については、災害発災時1時間以内を想定した安否確認とします。

### 【安否確認をする際の災害の定義】

- ・震度6弱以上の地震が観測された場合。
- ・土砂災害等の大規模災害が発生し、災害応急対策のため災害対策本部が設置され、安否確認を行う必要があると判断された場合。

駒ヶ根市

# 平常時に家庭内で行っておくこと

## 1 家の中の点検をしておく

タンスや食器棚など倒れる危険のある家具は、固定できているか確認する。家具が倒れて、下敷きになったり、ドアをふさいで通路が寸断されることがあります。

(参考) 阪神・淡路大震災で怪我をした人の原因 (資料 神戸市消防局)

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1 家具の転倒        | 48.5% |
| 2 棚等の上からの落下物   | 15.8% |
| 3 落下したガラス      | 10.5% |
| 4 逃げようとしたときの転倒 | 8.8%  |
| 5 その他          | 16.4% |

## 2 非常持出品 (非常備蓄品) を用意しておく

非常持出品は、家族構成を考えて、必要なものを用意し、避難時にすぐに持ち出せるよう保管しておきましょう。

(非常持出品 … 懐中電灯、ラジオ、非常食、水など)



## 3 家の中で安全に避難できる場所を決めておく

家具がない部屋、ガラスが飛び散らない場所など

## 平常時に隣近所で行っておくこと

### 1 緊急時家族名簿を作成し、隣組長が保管をしておく

「様式1：災害時家族台帳」を各戸で作成し、安否確認をする対象者を確認しておく。また、各自の資格や技能を記載しておけば「緊急時人材台帳」にもなります。（ただし、個人情報の取り扱いには気をつけましょう）

### 2 隣組単位で1次避難場所を決めておく

隣組で一番近く集まりやすい安全な場所を、あらかじめ決めておく。

### 3 隣組のコミュニケーションを常にとることを心がける

家族の様子を伝え合う。また、高齢者世帯、要配慮者がいる世帯で、避難時に家族以外の手助けがいる場合は、誰がサポートするかを決めておく。

### 4 隣組の中で役割を決めておく

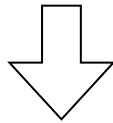
万が一のときのために、副隣組長や介助者などをあらかじめ決めておく。



## 災害が起きた時は

### まず自分の身の安全、家族の安全を守りましょう

- ① 地震の場合は揺れが収まるまで身を守る。
- ② 家屋内にいる家族の安否確認を行う。
- ③ 揺れがおさまったら使用中の火気を消す。
- ④ 避難時はガスの元栓を閉め、通電火災を防ぐため、電気のブレーカーを切る。
- ⑤ 周辺の安全を確認して避難する。



## 隣組で決めた 1 次避難場所へ集まる

### 1 隣組長に家族の様子を報告

- ① 隣組長は、災害時家族台帳を基に安否確認をする。  
安否確認をするのは、災害発生時に自宅にいる人のみとし、名簿に登載されていても会社・学校などに行っている人は、安否確認の対象としない。

#### ●安否確認上の注意

- ①大規模地震等が災害発生した場合、時間帯によりますが、1世帯1名以上は1次避難場所へ集合し、家族の安否を報告するよう、全世帯に徹底しておきます。
- ②各世帯では、昼間・夜間・休日などのケースごとに誰が1次避難場所へ行くか決めておきます。

#### 【安否確認の方法】

##### 平日の昼間

- ・自宅にいる人の安否のみ確認します。勤務先、学校等にいる人の安否は確認できません（確認しません）。（確認手段がありません）
- まずは、自宅にいる人の安否確認が第1優先です。

##### 夜間・休日

- ・自宅にいる人の安否のみ確認します。勤務先にいる人の安否は確認できません（確認しません）。

- ② 安否確認が確認できない家庭がある場合、手分けをして複数人で確認に行く。

## 2 上記1－②の確認で、大声で叫んでも返事が無いとき

【以下の3つの要因が考えられます】

- ① 留守のため・・・応答がないのか
- ② 大ケガをしているため・・・応答ができないのか
- ③ 気を失っているため・・・応答ができないのか

【上記②・③を想定して、万が一のために】

- ・救出することを最優先し、場合によっては、ドア（戸）を破損してでも救出しあうことを了解しあっておくこともひとつの方法です。  
その際は、破損しても良いドア（戸）を、皆で事前に確認しておくことが大事です。

【返事がないため、家の中に入りました】

- ・救助が必要であった場合、1人は1次避難場所に戻り、隣組長に様子を伝え、応援が必要であれば要請をする。また、伝令に行った人はすぐに戻って救助活動を行う。

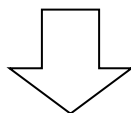
## 3 1次避難場所での安否確認が終了 → 2次避難場所（避難所）へ

隣組長は、全世帯の状況を「様式2：隣組長用 災害時安否確認票」に記載し、自治組合（町内会）に報告をします。また、避難が必要な方と一緒に2次避難場所（避難所）に行きます。

この際、すべてにおいて2次避難場所（避難所）に避難することが必要でない場合もあります。自宅が安全であれば、家にいるのが一番良いと考えられます。

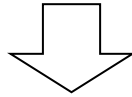
なお、元気で避難所の運営に携われる方は、2次避難所に行き、自主防災活動に携わってください。

また、要配慮者で家族がいらないため自宅に帰れない方、住宅が全壊又は半壊などで自宅に戻れない方、ケガをされた方などは2次避難所、拠点避難施設又は福祉避難所（要介護者や高齢者等）へ避難することが必要です。



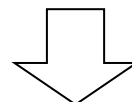
## 自治組合で決めた2次避難場所（避難所）へ集まる

- ① 自治組合（町内会）で決めた避難地に避難したら、隣組長等は隣組ごとの安否確認状況を自治組合長に報告する。
- ② その際、1次避難場所において大ケガをしたり、気を失っているような事態が起きていた場合は、救助のための応援要請等必要な情報も報告する。
- ③ 各隣組長から救助要請、人手の確保要請があった場合は、速やかに自主防災会長に報告し対策を講じます。（この場合、自主防災会長は自主防組織内で対応するか、市の災害対策本部へ要請することとなります。）
- ④ 自治組合長は自治組合内の報告を「様式3：自治組合長用 災害時安否確認票」を取りまとめる区長に報告する。



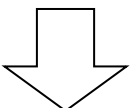
## 自主防災組織の災害対策本部設置

- ① 自治組合長は自治組合内の状況を区長（自主防災組織の災害対策本部）に報告する。
- ② 区長は地区内の情報を取りまとめる。
- ③ 区長は「様式4：自主防災会長用 災害時安否確認票」を取りまとめ、駒ヶ根市災害対策本部（避難者支援拠点）に報告する。
- ④ 避難者支援拠点は、市内5小学校の体育館に設置する。



## 避難者支援拠点

- ① 避難者支援拠点とは、小学校通学区ごとの情報収集拠点であり、小学校体育館は拠点避難施設となっている。
- ② 避難者支援拠点には、市の職員が待機している。
- ③ 区長は区で取りまとめた情報を連絡員により、市職員に報告する。
- ④ 市職員は、「様式5の1：避難者支援拠点安否確認票（本部送信用）」により、市災害対策本部に報告する。  
報告手段は、衛星携帯電話を基本とする。中沢小学校、東伊那小学校は防災無線子局のアンサーバックも使用が可能である。



## 駒ヶ根市災害対策本部

- ① 市災害対策本部は、避難者支援拠点から来た情報を「様式 5 の 2 : 災害対策本部安否確認票（本部受信用）」で受信する。
- ② 市災害対策本部は、各自主防災会からの報告を「様式 6 : 災害対策本部用 駒ヶ根市自主防災会 安否確認結果票」にまとめる。

安否確認については、以上が一連の流れですが、この他に地域内の要配慮者を把握するための、「様式 7 : 要配慮者台帳」を作成し、緊急時の支援や避難をすばやく行うことにも配慮しておきましょう。

### 【参考 兵庫県北淡町町長 小久保氏手記より】

倒壊家屋の下敷きや生き埋めになっている 300 人近い人達を、消防団員、町内会の役員、近所の人達が、一緒になって最短距離と最短時間で現場に到着して、倒壊で即死状態になった人達を除いて、全員無事に救出することができた。

これは北淡町が古い歴史をもつ漁業中心の町で、地縁血縁のつながりが非常に強く、「あの家のおじいさんは奥の部屋で寝ている」ということまで、お互いに知っている。みんなが「顔見知り」であるという「顔見知りコミュニティ」が普通であったということである。

### <災害時安否確認（避難）マニュアル>

平成 25 年 5 月発行

平成 30 年 6 月改訂

### 【編集・発行】

駒ヶ根市 総務部 危機管理課 地域防災係

〒399-4192 駒ヶ根市赤須町 20-1

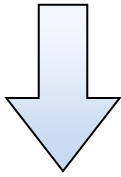
電 話 0265-83-2111（内線 221）

F A X 0265-83-4348

E メール bosai@city.komagane.lg.jp

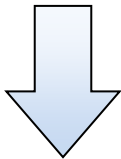
## 地震発生

**まず自分の安全、家族の安全をしっかり守る！**



- ◇ 揺れが収まるまで動かない、火・ガス・電気を切る
- ◇ 家屋内にいる家族の安否確認を

## 隣組で決めた 1 次避難場所へ集まる

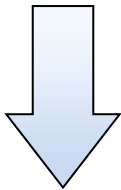


各ご家庭 隣組長へ家族の安否報告 → 自宅が安全なら自宅待機

隣組長 隣組の安否確認【様式 2：隣組長用 災害時安否確認票】

※ 隣組長・避難が必要な方・避難所運営に携われる方

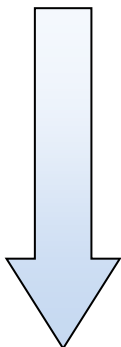
## 自治組合で決めた 2 次避難場所（避難所）へ集まる



自治組合長 隣組ごとの安否状況取りまとめ

【様式 3：自治組合長用 災害時安否確認票】

## 自主防災組織の災害対策本部を設置する



自主防災会長（区長） 自治組合ごとの安否状況取りまとめ

【様式 4：自主防災会長用 災害時安否確認票】

自主防災会長（区長） 取りまとめた情報を避難者支援拠点へ報告

【様式 5 の 1：避難者支援拠点安否確認票】

## 避難者支援拠点（各地区小学校）で取りまとめ



市職員により駒ヶ根市災害対策本部へ報告

## 駒ヶ根市災害対策本部で市内状況取りまとめ

被災状況の把握、報道機関対応等で使用